

農業農村整備事業等再評価地区別資料

局 名	北陸農政局
-----	-------

都道府県名	新潟県	関係市町村名	<small>にいがたし つばめし</small> 新潟市、燕市
事業名	農業競争力強化農地整備事業	地区名	<small>うちこし</small> 打越
事業主体名	新潟県	事業採択年度	平成 27 年度
<p>〔事業内容〕</p> <p>事業目的： 本地区は新潟市の南西部に位置する稲作を主体とした農村地域であるが、20a程度の狭小な区画、2～4m幅の狭い農道、用排水兼用の土水路による排水不良等により営農に支障を来している。</p> <p>このため、本事業によりほ場の大区画化、農道、用排水路、暗渠排水の整備を行い、生産コストの低減と生産性の高い土地利用型農業の展開を行うことで、担い手への農地集積を進め、本地域全体として農業競争力の強化を図るものである。</p> <p>受益面積： 192ha</p> <p>主要工事計画： 区画整理 192ha（整地工 192ha、農道 27km、末端用水路 26km、排水路 25km、暗渠排水 192ha） 用水路 2km</p> <p>総事業費： 5,713 百万円（計画総事業費：5,106 百万円）</p> <p>工期： 平成 27 年度～令和 9 年度（計画工期：平成 27 年度～令和 5 年度）</p> <p>関連事業： なし</p>			
<p>〔項目〕</p> <p>ア 事業の進捗状況</p> <p>本地区の区画整理は、概ね完了しており、令和 6 年度までの進捗率は、区画整理が 97%、用水路が 43%の整備率であり、全体で 92%となっている。今後、用水路の整備を進める予定である。</p> <p>① 計画工期に対して著しい変更は認められないか</p> <p>本地区は、平成 27 年度に採択されたものの、遺跡の発掘調査において、平成 27、29、30 年度及び令和元年度に新たな 7 つの遺跡が発見され、平成 28、30 年度及び令和 2 年度には既知の遺跡範囲の広がり確認された。</p> <p>そのため、新たな遺跡の発見や遺跡範囲の広がり確認される度に協議が必要となり、多くの期間を要した。</p> <p>② 地元負担等について、関係者間の合意形成が図られているか</p> <p>地元負担について関係者との合意形成が図られている。</p>			

イ 関連事業の進捗状況

該当なし。

- ① 「農業農村整備事業管理計画」等に即し、関連施策等との連携・調整が行われているか
農業農村整備事業管理計画に即し、適切に連携・調整が行われている。
- ② 国営附帯地区については、国営事業との進捗調整が図られているか
該当なし。

ウ 農林水産業の情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化

- ① 受益面積の増又は減が10%未満であるか
計画変更(令和4年1月計画確定)以降、受益面積の変動は生じていない。
- ② 主要工事計画の著しい変更が認められないか
計画変更(令和4年1月計画確定)以降、受益面積の変動(主要工事計画の著しい変更)は生じていない。

エ 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化(費用対効果分析の結果を含む)

農業効果の算定基礎となる地域農業振興の基本方針などの諸情勢の変化を踏まえ、計画変更済みであり、計画変更以降、費用対効果分析の基礎となる要因の変化は生じていない。

- ① 工法や事業量の変更に伴う事業費増分(労賃又は物価の変動によるものを除く。)が計画事業費の10%未満であるか
計画変更(令和4年1月計画確定)以降、計画事業費の変更はない。
- ② 市町村等が策定する農業振興計画等との整合が図られているか
新潟市及び燕市の農業振興地域整備計画と整合が図られている。
- ③ 費用対効果分析の結果
(B/C) 2.20 (現計画時: 2.33)

オ 事業コスト縮減等の可能性

パイプライン等の基礎砂については購入砂による施工を計画していたが、他事業等での発生砂を利用することでコスト縮減を図った。

カ 地元(受益者、地方公共団体等)の意向

本地区は、稲作経営を主体とした農村地域にある。採択から10年が経過し令和6年度末までに区画整理については、事業量の100%が整備済みであり、用水路は事業量の13%が整備済みとなっている。

また、ほ場整備事業を契機に、新たな農業法人1法人を含む2法人が中心となり営農しており、担い手の農地集積率は、68.5%(平成27年度)から75.8%(令和6年度)に増加している。

今後、経営体等の経営基盤の強化や地域農業の発展を図るため、早期の完了を要望している。

キ 代替案の実現可能性

該当なし。

ク その他

- ① 環境等の調和への配慮
新潟平野の中央に位置する本地区は、地形が極めて平坦で、中ノ口川や用排水路といった水辺が主な自然環境であり、東側に越後連峰、西側に弥彦山を望む田園風景は新潟平野の代表的な故郷の景観を形作っている。

また、新潟市農村環境計画において「農業振興エリア」の「歴史景観保全ゾーン」「安らぎ散策ゾーン」としてゾーニングされている。

工事実施に当たっては、環境負荷の低い重機を使用するとともに、排水路の一部構造物を既設利用する等「代償」に努めた。

今後の残工事となる用水路工事においても、引き続き環境負荷の低い重機を使用し、また、濁水発生防止等、生態系への配慮に努める。

② 計画変更

第1回計画変更年月日（計画確定日） 令和4年1月18日。

事業主体の事業実施方針	継続する。
事業主体の予算要求方針	令和8年度予算を要求する。
第三者の意見	本地区では、区画整理、用水路の整備が進められており、事業の進捗率は92%に達している。 本事業を契機に設立された農業法人を含む2法人等への農地集積率が増加するなど、経営規模拡大が進められており、事業効果の発現が認められる。 事業の効果が早期に発揮され、担い手への農地集積を進め生産性の高い営農が行えるよう、着実かつ計画的に事業を推進し、予定されている令和9年度の事業完了に努められたい。
補助金交付の方針	予算を割り当てる。

農業競争力強化農地整備事業 「打越地区」計画一般平面図 【No.6】

○総事業費 5,713百万円

○工期 H27～R9

○主要工事

①区画整理 192ha

(内訳)

整地工 192ha

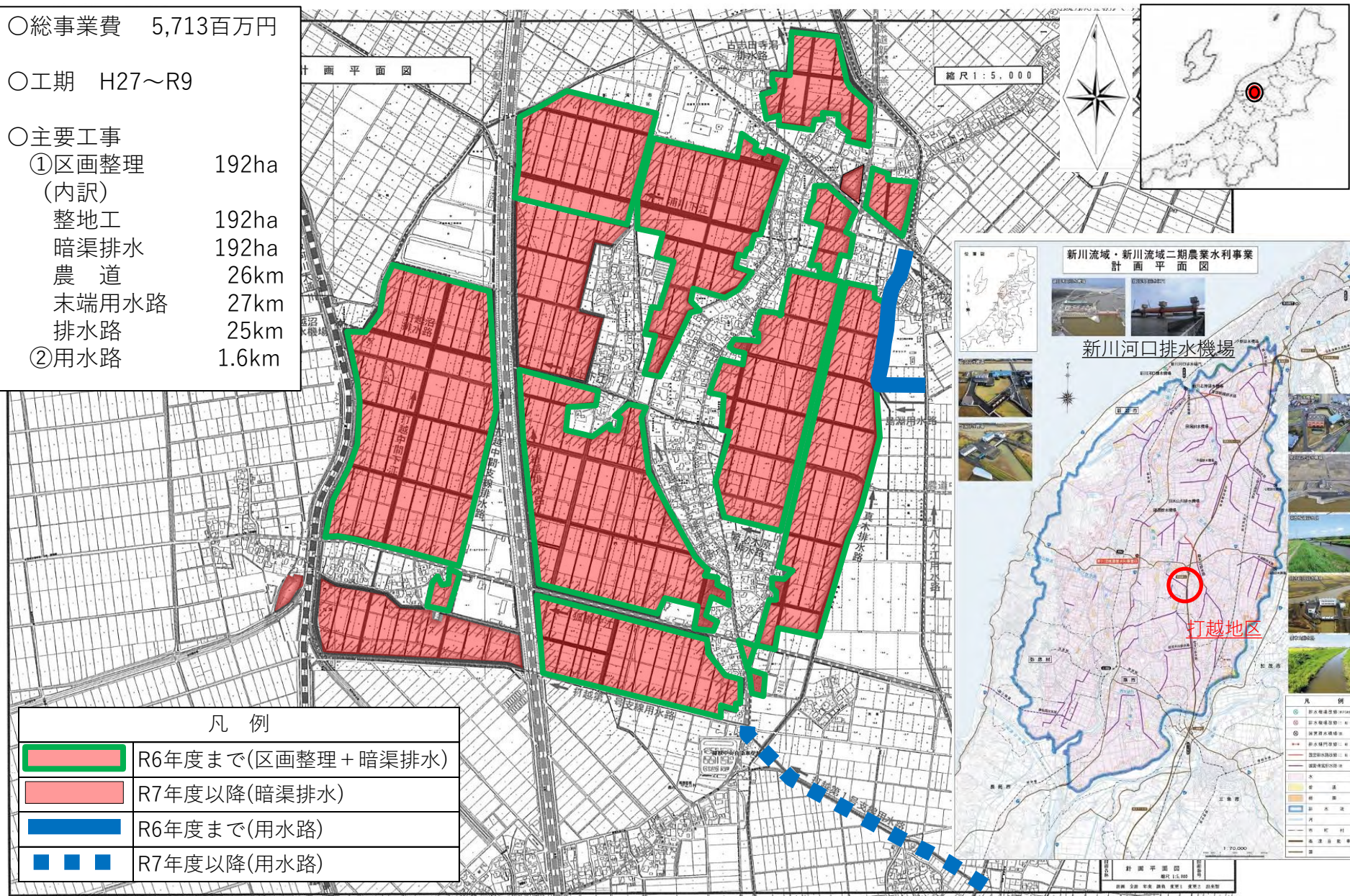
暗渠排水 192ha

農道 26km

末端用水路 27km

排水路 25km

②用水路 1.6km



凡例

	R6年度まで(区画整理 + 暗渠排水)
	R7年度以降(暗渠排水)
	R6年度まで(用水路)
	R7年度以降(用水路)

